第三期武蔵野市コミュニティ評価委員会　第３回議事録

日　時　　平成23年４月28日（木）　午後２時～４時
場　所　　武蔵野市役所　812会議室
出席者　　江上委員、島森委員、井波委員、大杉委員（名簿順、敬称略）
　　事務局（市民協働推進課：森安、江波戸、大橋、志賀）
欠席者　　朝岡委員、平委員、増田委員
傍聴者　　なし

＜次第＞
１　開会
２　議事
　(1) 経過報告
　(2) 協議会へのヒアリングの報告
　(3) 評価の作成方法について
　(4) スケジュールの確認
　(5) 意見交換
３　その他
４　閉会

＜配布資料＞
資料１　経過報告
資料２　平成22年度自己点検評価表
資料３　ヒアリング結果
資料４　評価結果の様式案

＜議事録＞

１　開会

【委員長】　　第３回コミュニティ評価委員会を始めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

大分前回から間があきましたが、その間に事務局にヒアリングをしていただく等、活発なご意見をいただいたようです。それで、少し間もあきましたので、ここまでの経過、前回からここまでどういうことになっていたかということをまずは事務局から説明していただいて、その後、ヒアリングの具体的な報告ということで進めていきたいと思います。

２　議事

(1) 経過報告

【事務局】　　お手元の資料の右上に１とあります横長の活動経過の表をごらんください。１０月２９日に本委員会を設置し、第１回では、コミセンの運営、今回の評価の視点、スケジュール等について、事務局から説明いたしました。また、第一期、第二期の評価委員会での評価の活動についても報告いたしました。１１月２９日の第２回では、第三期の評価委員会での評価の方法についてご検討いただきました。自己点検・評価表の項目にご意見をいただき、あとは、一覧にしてその５カ年の経過を示すことによって、各協議会の振り返り、気づきになるのではないかというご意見をいただきました。あわせて、各コミュニティセンターの利用状況、件数、人数等についての資料をお渡ししました。

第１回、第２回の委員会の議論をもって、１２月３日に武蔵野市コミュニティ研究連絡会定例会（以下「研連」という。）において、第三期コミュニティ評価委員会の評価活動の現在の状況を報告しました。その際に、事務局から、過去の自己点検・評価表の一覧を配布しました。協議会の運営委員の皆さんで振り返りの活動をしていただき、その後、事務局がヒアリングに伺いますとお伝えしました。1月６日にその自己点検･評価表の一覧をお渡しし、２月に各協議会のヒアリングを行いました。震災等を挟み、第３回の委員会が本日になりました。経過報告につきましては以上です。

(2) 協議会へのヒアリングの報告

【委員長】　　ありがとうございます。議事の（２）になりますが、そのヒアリングの結果を、資料３にまとめていただいていますので、報告をお願いします。

【事務局】　　お手元の資料３に、ヒアリング結果を取りまとめています。

本来であれば、事前にお渡しできればよかったのですが、少し整理に手間取り、きょうお渡しして、ごらんになりながら話を聞いていただければと思います。先ほども説明いたしましたが、２月ほぼ目いっぱいを使って実施しました。１月６日の研連の際に、過去５年分の自己点検・評価表の推移ということで、資料のとおり、点数に網かけをして、過去の点数がこのようになっていましたということを一覧で確認できるものを各協議会にお渡ししました。一覧、過去の自己点検・評価表の記載されたものも含めてごらんいただき、５年間をさかのぼって振り返り、その上でヒアリングに対応していただくようお願いをしました。しかし、若干こちら側の説明が不十分だったのか、５年間をきちんと振り返っていたという協議会はほとんどありませんでした。そのため、ヒアリングの場でいらっしゃる方々と一緒に、５年間の話をしました。また、ヒアリングでは、５年間の経緯を示した一覧を見ていただきながら、かなりランダムな聞き方にもなりましたが、例えば評価が大きく変化をした点、それまで１だったのが急に３になったものについては、できるだけ詳しく話を聞いてきました。各会１時間から１時間半程度と思っていましたが、結果的には１時間半から２時間ぐらい各協議会にお伺いして、各協議会も、代表の方、役員の方あわせて最低でも５名近くの方が出席され、その方々からお話を伺う形になりました。事務局は２名が参加しました。

最初に、ヒアリングの中で気づいた特徴的な部分について申し上げます。日時順ではなく、東から順番で、吉祥寺東コミュニティ協議会から報告をいたします。

＜吉祥寺東コミュニティ協議会＞

形態的なこととして、運営委員の数は４３名、窓口に若い人が入っていることがわりと特徴的なところです。高校生や大学生の方々で、アルバイトではなく、しっかりと地域に対する意識を持って入っています。そういう方々がいるので、若い中学生もきて、交流もあります。

自己点検評価表の結果について、２番目の星印ですが、臨時の運営委員会を開催して、常に話し合いをしながら作成をしているので、全員の合意の結果になっています。

住民参加による開かれた運営になっているか（運営の参加）ですが、広報紙を年４回発行し、吉祥寺東町に６，０００部配布していて、まちのアーカイブ的な意味を持っています。かなり細かなまちの移り変わりなども書いているので、自慢としてお話がありました。それから、独自に掲示板を協議会として持っていて、この掲示板がかなり大きな効果を果たしています。行事の実施などに際しては、自発的に活動することを重視するため、だれがノウハウを伝えるのかといったことが十分されてないのかなとのことです。

次の大きな項目のネットワーク化ですが、利用団体の年次総会については、優先的に場所とりをしています。地域の課題の関係では、まちの中に駐在があり、駐在との関係が極めて強いということです。

裏面では、利用者しやすいコミセンづくり（利用の範囲）となっていますが、利用の配慮の間違いです。かなり融通をきかせて柔軟に対応していて、一番狭いコミセンですが、狭いことの効用があります。常に目が行き届いているので、そういった意味でのコミュニティづくり、関係づくりができているのではないかということです。

その他の欄の３つ目の星では、新しい人に入ってもらいたいが、協議会の特徴なのか、何となく難しいテーマについて活動しているというイメージを持たれているのではないだろうかと。少し入りづらく思われているかもしれない。役員もそれなりに高齢になってきているので、若返りのプロジェクトを立ち上げて、若い人を引き込む方法を模索しています。

それから、協議会が住民の代表でないことを自覚していて、意見の取りまとめを行うのではなく、話し合いの場としてコミセンを提供していると。ただし、一定の方向づけ、協議会がオピニオンリーダーになるようなこともありますというお話もあり、地域活動にかなり積極的に取り組んでいる協議会だということを、みずからもしっかりと評価していました。

＜本宿コミュニティ協議会＞

運営委員３１名、協力員３９名が昨年当初のメンバーで、ロビーの利用者、ＰＴＡなどに声かけをして増員を図っており、7人の方が新しく入られたと。数年かけて声かけをしてきた結果が出ています。

特徴は、地域のコミセンということを強く意識をして活動していて、地域団体との連携、地域課題の対応に力を入れています。

振り返りの内容ですが、第二期の評価委員会で、子ども対象のイベント等が少ないのではないかという指摘もあり、それを踏まえて、子ども対象のイベントを実施して親子連れの利用者がとても多くなった。それから、運営委員の世代交代を意識しています。

自己点検評価表の結果については、特段ありませんでしたが、評価表の質問がわかりにくいという話があり、ほかの協議会からも幾つか出ました。

住民参加による開かれた運営ですが、広報が中心の住民の方への情報提供です。広報を見直して、地域の課題・話題や利用団体の紹介等を掲載し、そのおかげで新規の来館者が増えてきました。

ネットワーク化については、他の団体、あそべえ、青少協、ＰＴＡ、福祉の会などの行事へ積極的に参加しています。

利用者しやすいコミセンづくりでは、地域の要望を取り入れて新しいイベ

ントを実施して、新規の利用者が増えました。フリーマーケットなども定期的に行っています。それから、ムーバスの運行時間の延長とか、大雨のときの浸水がありましたので、雨水タンクの設置といった、地域課題にも積極的に取り組んでいます。あるいは子どもとの関係ですが、東保育園と連携して保育園の行事をコミセンで実施をするというようなことにも取り組んでいます。

＜吉祥寺南町コミュニティ協議会＞

運営委員は５６名、なかなか新しい方が増えないということはありますが、すぐ隣に前進座があり、前進座からも運営委員に加わってもらい、積極的に参加していただいます。

当初ヒアリングに行った際には５年間の振り返りをしていなかったんですが、再度運営委員会を開催し、振り返りの作業も行いました。

自己点検評価表の結果についてですが、過去５年間を見返しても、評価が下がっていないので、努力は見えると思いますということです。

住民参加による開かれた運営になっているかということですが、やはり新陳代謝、若い世代が入ってこない。これはかなり問題意識をお持ちですが、どうして、何のためにコミセンがあるのかということについて、なかなか理解がされていないのではないか。呼びかけはするけれども、住民総会への参加も少なく、来るのはいつも同じメンバーです。

コミュニティ活動のネットワーク化ですが、以前は商店街の協力があったんですが、店主が代がわりをすると、なかなかそういった協力が得られなくなりつつあると。ただし、第三小学校との連携は大変うまくいっていて、さまざまな行事で連携をしています。常に「地域」ということを考えていろんな活動に取り組んでいるので、そのことについて当然のことと常に思っています。

利用者しやすいコミセンづくりですが、利用者のルール違反に伴うトラブルが結構あります。コミセンの位置的な問題もあるかもしれませんが、わりと隣の杉並区、三鷹市の方がお使いになっていて、名前貸しでいろんな方がお使いになるというふうな、そういったイメージが定着しているようで、利用の仕方で若干の問題がある方もいらっしゃるそうです。

裏面の、非常時のところの２つ目の点ですが、天災に対する対応も共有している、自主防災と共催でコミセンに宿泊し訓練を行っています。これはヒアリングの後のことですが、３月１１日の震災の際にも、帰宅困難者の対応を協議会が自主防災と合同で実施をしたり、あるいは学童保育で預かっていたお子さんの親御さんが帰宅困難者になり帰ってこられないと。その方々にコミセンに泊まってもらい、子どもさんを最後まで一晩面倒を見たというこ

ともありました。

一番下でその他のところですが、役員のなり手がないのがどうしても悩みです。

＜御殿山コミュニティ協議会＞

運営委員が５５名、全員が運営委員で、協力員はいません。ご近所、福祉の会で声かけをして、運営委員が４名ほど増えました。ただし、コミセンの活動について認知度が低いことが課題だろうとのことです。

特徴は、御殿山１丁目は町内会があり、会長や各区長を中心にコミュニティを形成しているので、ほかのコミュニティ協議会とはかなり違った様相があります。

運営委員間での協議会活動の振り返りですが、役員、窓口担当の方を対象に実施し、その結果、課題の再確認ができたとのことですが、具体的にはありませんでした。

住民参加による開かれた運営のところですが、住民総会への参加は、やはり運営委員以外の方で参加する方は数名しかいません。

コミュニティ活動の活性化とネットワーク化ですが、日赤奉仕団の方が１０名以上運営委員になっているので、かなり福祉関係でのつき合いが強いとのことです。

利用しやすいコミュニティセンターづくりですが、利用者からの要望についてはすぐに対応しています。新しい企画でお楽しみ会という、レクリエーション的なものをやるようになってから利用者が増えてきました。

＜本町コミュニティセンター協議会＞

運営委員は３６名です。

５年間を振り返って、人手を増やすことに努めてきました。イベントの参加者が協力員などに加わっています。近隣マンションからの問い合わせや参加者が増えました。今年度から行事のチラシを配るようにしたことがその原因として挙げられるでしょうということです。

コミュニティ活動の活性化とネットワーク化ですが、地域社協（東部福祉の会）には優先的に貸していて、福祉の会に幾つか部会があるんですが、それもすべて優先的に会議室をとっているので、月に四、五回、福祉の会だけで利用しています。吉祥寺東部地区街づくり協議会というコミセンを中心にした地域のまちづくりを考える会にも優先的に貸しています。日赤奉仕団の配食サービスの中継地点にもなっています。地域団体の方も運営にかかわっているため、連携ができています。

利用者しやすいコミセンづくりですが、大人数のイベントだと名前を覚えることができませんが、地域住民が講師になり、ささやかな講座を行うこと

で顔見知りを増やしています。すごく立派な講義ではありませんが、消しゴムはんこをつくるようなことをご近所の方が講師になって行い、わりとささやかなイベントだけれども、たくさんの方にお越しいただき、かなり濃密なコミュニティができています。まちで会ってあいさつができるようにやっています。

裏面ですが、商店会とのつながりや地域密着型を意識したコミセンだよりのつくり方に変えてきています。

その他の欄ですが、商業地域という地域性に甘んじることなく、地域の顔が見えて、地域の人に利用してもらえるような活動をやっていて、少しずつ和が広がり、高齢者の夫婦やひとり暮らしの方が多くなってきました。引っ越してきた方などが参加できる行事や近隣の施設を訪ねてくるケースも多くなりました。小さな行事を無理なく実施することで、顔見知りが増えています。コミセンの活動については市報に載せているものもありますが、あえて載せないで、近隣にチラシをまくことによって、全市的に人が集まるようなものではなく、近隣の方だけが集まれるようなイベントを行っています。

震災の際には、帰宅困難者の避難場所として使いましたが、そのときにも快く対応していただきました。最後のところで、社会が変化していることに対して、我々も変わらなければならないと考えています。人のつながりを手助けできるように心かげています。

＜吉祥寺西コミュニティ協議会＞

運営委員は４７名、女性の割合が極めて高いということです。

自己点検評価表の結果についてですが、評価は以前に比べて厳しくなっていますが、そういった目で見ているということだろうと思います。

運営委員会の参加ですが、出席は５割程度、意見は活発に出ています。窓口会議は毎月実施しています。新規の運営委員については、直接交渉して声かけをしたり、どなたかの紹介、あるいは主催教室に参加された方がそのまま運営委員になるケースもあります。

コミュニティ活動のネットワーク化ですが、地域懇談会というのを実施しています。市民と市長のタウンミーティングを、コミセンを会場として共催で実施していますが、それがきっかけで地域の懇談会が始まり、地域の福祉の会、ＰＴＡ、青少協との交流ができて、コミセンが地域のコーディネーターとしての役割を担っています。

利用しやすいコミセンづくりですが、窓口等で問題が生じた場合には、窓口会議で取り上げて、問題を共有するようにしています。

裏面ですが、これは皆さんからのご意見ですが、男性の方が退職をされると、地域、コミセンのことを何も知らない場合が多く、そういった人たちに

どうやってコミセンにかかわってもらうかということから、パソコン学習会などがきっかけになっていて、現在の男性の運営委員は、わりとそういったきっかけで参加している方が多いとのことです。

＜吉祥寺北コミュニティ協議会＞

運営委員は２６名で決して多くはないのですが、運営委員会には基本的に全員参加をしていて、常に９０％以上の参加率があります。運営委員の勧誘は声かけです。毎月ニュースを出していて、それで掲載してもなかなか効果は薄いそうです。今後は運営委員の確保を、今の人数で決して足りないわけではないが、全員でやっていきたいということです。

特徴は、かたくてまじめで民主的とのことです。

自己点検評価表の結果の下の星印ですが、運営委員全員に自己点検評価表を配って無記名で回収する方法で、運営委員の生の声が聞けるのでとても参考になっています。

住民の参加ですが、地域の方はイベントには参加するけれども、運営への参加はほとんどないのが現状です。広報紙は毎月発行しています。

ネットワーク化ですが、文化祭以外に、ちょうど５月の時期に北町さわやかまつりというのを実施していて、ここには１１の団体が参加して、もう既に数年実施し、定着してきました。

裏面の一番上のところで、すぐ隣に第四小学校があり、四小のＰＴＡから１名参加していて、小学校との関係がつくれてきました。

利用しやすいコミセンづくりですが、星印３つ目、利用者の要望に沿えない場合にも、決まりだからだめではなく、きちんと理由を説明して断るようにしています。以前に比べると利用者側のマナーはよくなったと感じているということで、吉祥寺南町では、利用者のマナーが少し悪いという話でしたが、吉祥寺北ではよくなっているということです。

その他のところで、５年間の成果の２番目ですが、窓口での接し方、対応に気をつけるようになったそうです。上から物を言わないようにしたということです。これから取り組みたいことですが、一番上のところに、ふらっと参加できるような単発の事業に取り組んでいきたい、吉祥寺北コミセンの特徴である広いロビーを生かして気軽に楽しい場所づくりに取り組んでいきたいということを考えています。

＜けやきコミュニティ協議会＞

運営委員は５８名、運営委員会には常に４０名以上が集まります。ただ、いろんなイベントをやるんですが、その役員や委員長のなり手がちょっといないのが課題です。

運営委員全体で協議会活動の振り返りをした中では、全体として男性の運

営委員が増えてきました。

住民総会の工夫について、その２つ下の段の住民参加による開かれた運営になっているかのところで、住民総会で講演会やアトラクションなどを行って参加を促しています。ただ、運営委員を入れても、５０名から６０名の参加にとどまっています。

会議等については、できる範囲での参加を呼びかけています。できるとき、できないときはお互いさまなのでとのことです。

新しく運営委員会に加わった方に対しては、けやき精神、けやきの歴史、自分たちのモットーとしているようなことについてしっかりと説明をして、すべての方に役割・係を持ってもらい、参加をしているという自覚が持てるようにしています。

コミュニティ活動のネットワーク化ですが、小学校、中学校とのおつき合いがしっかりできるようになってきています。大野田小学校、四中の学校の先生方とのおつき合いもできているし、ＰＴＡの方とのつながりもできました。近隣の公園の手入れをされたりだとか、むさしのミニタウンというイベントを行ったり、自然発生的に生まれたイベントがあります。結果としてつながりが広がって、協議会が地域のインキュベーター的な存在になっているのではないかとのことです。ただ、地域の団体とのつながりはさほど強くなくて、協力できることは協力しているということです。

裏面では、利用者しやすいコミセンづくりですが、皆さんの中から出た意見として、コミセンに来ない人に対するアプローチを常に考えているが、難しいとのことです。けやきコミセン内の仲がよいから入りづらいという意見も聞くということで、そういったことを課題として認識しています。

だれもが安心できるというところですが、来館者からの苦情はさほどありません。ミスをなくすための工夫を行っています。厳しいルールはなく、臨機応変に対処しており、窓口担当者の判断に任せています。

この数年の成果ですが、地域のまちづくりのコーディネーターとしての役割を意識してやってきています。

＜中央コミュニティ協議会＞

運営委員は３１名で、ここ数年はこの数字で横ばいです。協議会の特徴ですが、中町集会所がありますので、大型館と小型館の２館を運営しており、部屋の種類も豊富で利用者が多いということです。

自己点検評価表の作成についてですが、必ずグループで討議をして、それを最終的に取りまとめています。

運営への参加ですが、運営委員会の出席率は９割ほどで常に高いものを維持しています。

コミュニティ活動の活性化とネットワーク化ですが、平成２２年度から文化祭に地域の他団体に協力をしてもらっているので、協議会だけの文化祭ではなくなりました。

利用しやすいコミセンづくりですが、２つ目の星印で、施設の予約は先着です。ダブる場合には、どうしても朝６時ぐらいから並んでいる方がいます。苦情がきたりすることもあり、抽選などそれ以外の方法も検討したけれども、そちらに対しても反対意見があったということです。

利用者懇談会には７０名から８０名の方が参加しており、極めて多いということです。市民以外の方でも、市外の方でも月１回は利用できるようにしています。

一番下ですが、月に一回中高生向けに卓球台を自由開放して若い人たちに来てもらえるようにしています。

裏面のその他のところでは、ここ数年の成果として、こどもスタッフ、小学生が文化祭、夏祭りのお手伝いをするようになりました。

これからの取り組みでは、これは少し昨年度時間をかけて、事業の数を減らしています。運営を見直して、できるだけ負担にならないにように、可能な範囲内でできるようなものにしていっています。

＜西久保コミュニティ協議会＞

運営委員が３８名です。運営委員間での振り返りですが、過去５年間を、約３０人、運営委員の８割の方が集まって行いました。

住民参加による開かれた運営になっているかということですが、住民総会への参加は５０人で、運営委員以外の方でお見えになる方は数名です。地域住民もきてほしいが、どのようにしたら関心が持てるのか。一般の方の参加が芳しくありません。

コミュニティ活動のネットワーク化ですが、団体の行事もコミセンだよりに掲載をしています。コミセンだよりには登録している団体の方々を、２カ月に１回ぐらい載せています。文化祭も福祉の会との共催で、単純に場所を借りて、そこに参加をするだけではありません。青少協や地域福祉の会とのつながりが深く、１月のナイトハイク、コミセンから多摩湖まで行って帰ってくるイベントですが、これは特筆すべきものです。地元の商店会との関係も今は大変よくなっています。ただ、地域の中に学校がないので、若い人、若いお父さん、お母さんの力がなかなか入ってこないのではないかということです。事業費は少ないが、事業は多く行っています。

裏面ですが、年末の大掃除も１６０名近くが参加をしました。

その他の一番下ですが、地域の中に学校はないんですが、子どもたちはわりと来ていて、子どものたまり場になっています。ゲームなどをしていて、

一時期はその子どもたちと囲碁をうっているお年寄りなどとの間でわりとトラブルが起きやすかったんですが、活発で活気があってよいという声もあり共存しています。

＜緑町コミュニティ協議会＞

運営委員が２５名います。運営委員のなり手としては、人脈によって退職者に声かけを行って入ってもらっています。

特徴はグリーンパートナー、クリーンセンターのすぐそばにあるので、グリーン、エコなど、環境ということに対する意識は極めて高いことです。それによって地域をリードしていて、フリーマーケットの売上は、地域猫の会などに使っています。

住民参加による開かれた運営になっているかというところですが、広報紙を毎月１回頑張って出しています。事前に希望アンケートを実施して、協力員の方も手伝える範囲で行事の支援をしてもらうようにしています。

ネットワーク化ですが、緑懇話会といいまして、老人会、団地の自治会など１０団体ぐらい入っている町内の懇話会があり、連携が極めて強いということです。行事に中学生の参加や学習室の利用が多い。コミセンに顔なじみの人が多く、中学生などの子どもたちが利用しています。ふじの実保育園、幼稚園とシルバーピアがすぐそばにあり、この方々がコミセンの文化祭に作品を展示して、シルバーピアの方については生きがいになっているのではないかということです。

利用しやすいコミセンづくりですが、2階に上がるのが困難な方のために、１階のホールの半分を予約可能な施設にしたところ、利用者が増えました。今までは普通のロビー、サロンのようになっていましたが、そこも予約で使えるようにしたら、階段の上りおりが大変な方は利用しやすくなったということです。

その他のところ、最後にやはり役員のなり手がいない。地域の企業であるＮＴＴを取り込みたいということです。

１枚表裏の資料がついておりますけど、これは協議会として２２年度の自己点検評価をした上で特記すべきことを書いたものですので、後ほどご参照いただければと思います。

＜八幡町コミュニティ協議会＞

運営委員は２６名。運営委員が若干減ってきているんですが、その減った原因を考えなければいけないとのことでしたが、まだその原因は突きとめられてはいません。

特徴については、定足数を欠いたことはない。規則にのっとり実行していて、民主的に運営しているのが自慢ということです。総会をやった際にはき

ちんと報告も出しています。

コミュニティ活動の活性化とネットワーク化の中では、一番下に我がまちルーツが１０年となったとあります。八幡町というまちのいろんな歴史、ルーツに関するようなことの活動を、まち歩きをしながら取り組んでいて、それが１０年になってかなり定着をしてきているんではないか。その場には、ＰＴＡ、子ども会なども参加しています。

利用者しやすいコミセンづくりですが、現在、大変狭いコミュニティセンターですので、そのときの空き状況に応じて臨機応変に対応しています。

その他で一番下のところですが、運営委員、協力委員、役員が増えない、会議で発言が少ない、欠席してしまうなどの悩みがあります。

その後に２枚ついていますが、自己点検・評価を行うに当たって、皆さんでの話し合いをした中身を取りまとめています。とりわけ今、新しいコミセンづくりのためにいろんな活動をしていますので、そこに対してみんなで同じ方向を向いて頑張っていることについて、みずからも評価をしています。

＜関前コミュニティ協議会＞

運営委員が４５名。一番下のところですが、専業主婦が少なくなって、運営委員の確保が課題になってきました。これは関前コミセンだけではないんですが、特段このことを特徴的に言っていました。

協議会の特徴というよりも、これはコミュニティセンターの特徴に近いんですが、子どもが多く、待ち合わせ場所として子どもたちが利用しています。それから、リピーターの方が多い。その他、ちょっとトイレを使いたいとか、ムーバスを待っているための場所として使われるようなことも多いということです。協議会としては、窓口に大人がお見えになったときには必ずあいさつをするようにしています。

運営委員間での協議会活動の振り返りですが、以前は３カ月に１回だった窓口担当者会議を２カ月に１回にしました。苦情等の解決に努めて、窓口の対応が向上してきています。

住民総会への参加がやはり運営委員の以外の方、外からお見えになる方が少ない。一部の運営委員に事業の負担が大きくなっていて、事業の見直しをしていかなければいけないということです。

利用者懇談会ですが、こちらは利用団体代表者に出席を依頼していて、６０名程度が参加していますので、それなりの人数が集まっています。

コミュニティ活動の活性化とネットワーク化ですが、地域社協の荷物の一部をコミセンで保管をしていたり、地域社協、あそべえ、青少協との共催事業を行っています。一番下で、関前南小学校との連携がよくとれているということで、そのことは関前南小学校の先生方からも高く評価をいただいてい

ます。

＜西部コミュニティ協議会＞

運営委員が４０名います。協力員が４０名で、協力員の人数は増えています。行事に参加してくださる方には加入してもらっており、サークルに呼びかけています。つながりが生まれ、さまざまな連絡が伝わるようになりました。運営委員の入れかわりは、口コミや友人、知人を誘っています。

協議会の特徴ですが、小学校区が２区あり、ＰＴＡ、青少協もそれぞれにあります。ふれあいまつりも実施し、児童館、保育園、幼稚園、大学、中学校、そういった方々と連携していて、一番広い守備範囲になっていますので、幼稚園児から大学生までおつき合いをしています。社協も２つあり、優先的に会合に利用しています。高校生の利用が多くて、活気があります。

運営委員間での協議会活動の振り返りで、下の星印ですが、協議会の特徴として、この数年で役員が大きく入れかわりましたので、５年間の振り返りすること自体が難しいという話がありました。

住民参加による開かれた運営ですが、広報紙の配布枚数を倍にしました。その結果、知る機会が増えたことによる利用者の増加、引っ越してきた方からの問い合わせが配布後にあります。この１年ほど個人来館者が増えた、ということでよかったなと。ただ、運営委員のなり手はなかなかいないということです。

裏面の一番上のところ、コミュニティ活動のネットワーク化ですが、防犯市民パトロール隊はコミセンが出発点となっていることで、地域の防犯をパトロールしている方と連携がしっかりできています。境南、桜堤コミセンとの連携が、協議会同士のつながりから、利用団体同士のつながりへと波及効果があらわれてきました。これは文化祭での出展も相互にしたりしています。

利用しやすいコミセンづくりですが、「利用の決まり」を改めて予約方法を緩和して、利用者が増えてきています。ただし、３番目になりますが、利用者が増えたことによるマナーの悪さの指摘が悩み。物が壊されたりしています。利用団体のグループ登録を始め、ホームページでの団体紹介や館内での掲示を考えています。また、利用者懇談会も見直し、団体による懇談会を初めて実施しました。約３０グループのうち、２０ほどが利用者懇談会に出席し、団体間のネットワークづくりを始めることができました。

その他の欄の２つ目ですが、第５日曜日がある月にコミセンセミナーというものをコミセンで実施をして、防災、福祉というテーマで、市の職員などが講師になり開催していますが、そういった場を始めていろんな方が集まるようになりました。

＜境南コミュニティ協議会＞

運営委員が５６名ですが、ここは自由参加ではなくて、町名で割り振られていたり、団体から必ず出すことになっていたり、最近規約を改め、自由枠というものもつくり、自由に参加をしたいという方々が入れる余地も確保しましたが、わりとほかのところとは違った運営の仕方になっています。ただし、そこに半ば強制的に地域代表・団体代表を入れ、活動するきっかけとなっています。運営委員会でも活発な意見が多いという評価をしています。

住民参加による開かれた運営ですが、文化祭は、単にコミセンの文化祭ではなくて、地域の文化祭としてやり方を考えています。モーニングハイクも大きなイベントの一つですが、親子のモーニングハイクに変えて、親子での参加が多くなりました。３つ下ですが、四、五年前から若い世代の運営委員が増えてきています。学童の保護者の方が動いてくれることと、昔ながらの団体持ち回りが作用しています。団体の持ち周りで役員を出していただいていますが、その中で若い方がそれなりに定着をしてきています。

コミュニティ活動のネットワーク化ですが、協議会の会長が地域の地域社協の副会長を行っているので、連携がしっかりできています。

裏面では、地域に公共施設が少ないという境南町の特性でしょうか、コミュニティセンターの地域における認知度が高いと思っています。ＰＴＡ、青少協をきっかけに運営側に若い世代が増えました。若手の発想を生かすことができるようになってきています。

だれもが安心できる適正な運営も、市にもわりと利用の規約についていろいろとご意見がありますが、それを踏まえて、その都度見直しを行っています。

＜桜堤コミュニティ協議会＞

運営委員は３１名です。運営委員会には毎回９割参加しており、活発な意見交換をしています。運営委員が平成２２年度３名加入し、少しずつ新陳代謝をしています。

協議会の特徴ですが、建物としては、小さかったり、エレベーターがなかったりという問題はあるんですが、アットホームな雰囲気があって、運営委員同士の顔が見えている関係で、内外ともに開かれているのではないかと自負をしています。

自己点検評価表の結果について、5番目、一番悪い評価がないというのが、いい点だろうと思っています。

住民参加による開かれた運営になっているかということですが、住民総会には６、７０名が参加していて、内部の方以外に地域の利用団体からも３０名ぐらいが参加しています。利用者懇談会も４０名ぐらいが来て、いろんな意見を出していただいているが、来ていない人の声をどのように聞くのかが

課題だろうということです。数年前から取り組みを始めた夏まつりですが、９００人と書いてありますが、かなり多くの方が参加をしていて、コミセンのある地域の桜堤３丁目だけではなく、１、２丁目からも集まっています。協議会のやり方としては、みんなの合意のもとで時間をかけて議論をしています。

裏面のコミュニティ活動の活性化とネットワーク化ですが、どの団体とも穏やかな、緩やかなつながりを持っています。

利用しやすいコミセンづくりですが、利用者の声を反映して、２階和室にじゅうたんを敷いて、テーブルといすを運び、和室がつらい方でも少人数のグループにも利用できるようにしました。すごくよくなったという声をいただき、うれしかった。限られた設備の中で工夫を凝らしています。

その他のところですが、活動の活性化は、利用者からの声がやりがいとなっている、お褒めをいただいているということで、窓口の対応は自慢をできるのではないかと。また、すぐ隣のコンビニエンスストアが閉店になり、コピーをとってほしいと言われたり、ちょっとした買い物ができなかったりと不自由になったとのことです。

ここ数年の成果としては、チームワークが大変よくなったということを挙げていました。

ざっと申し上げましたけれども、以上でございます。

【委員長】　どうもありがとうございます。１６全部ヒアリングしていただきまして、大変だったと思います。

そうしたら、いろいろご質問もあるかと思いますけれど、その個々の協議会の中身についての前に、何か全体的に今回のこのヒアリングについてご質問がありましたらば触れていただけますか。

私から、１つ。ヒアリングに答えて、対応してくださった方は、協議会のどんな方が多いんですか。

【事務局】　ほとんどは代表の方、研連のメンバーの方が多いです。代表、副代表、会計という形で、やはり役付というんでしょうか、そういった方々がほとんどだと思います。大体５名ぐらいはいらっしゃいました。

ちなみに、何で評価委員会が来ないんだというお話が２件ぐらいありました。今回はこういう形をとっておりますという説明をいたしました。

【委員長】　それと、ヒアリングの中身ではないのですが、こちらの５年の評価の変化を拝見すると、まあまあ、わりと直線上に並んでいるのが多いのですけれど、概して地域の諸団体との関係というところのわりとでこぼこが多い協議会が多いような気がするんですが、これは何か理由のようなものをお感じですか。

【事務局】　　新しい運営委員などが入ってこられると、それぞれの団体をご存じないという方がいらっしゃるそうです。それをそのままつけていって平均すると、全くネットワークができてないというところが出てきてしまったりだとか、ここの部分の評価の仕方が少し難しいというお話がありました。あるいは場所貸しをしているので、ネットワークができているというふうにみなすのか、一緒に何かをやることによって、場所貸しをするのにちょっと優先的に貸していることによってネットワークができているのか、あるいは共催事業をやることによって、それをネットワークというふうに評価をするのかということです。この評価の仕方がやっぱりばらばらになってしまうのでというふうなお話がありました。

【委員長】　　そういうことはありますよね。なるほど、わかりました。

【Ａ委員】　　全体的な話ですけど、この５年間で、例えば運営委員とか、どちらかというと運営委員ですよね。それから、そのうちの窓口対応される方、これのトレンドというか、変化というのは何か、今回は聞かれてないんでしょうか。この５年間で。

要するに、私が言いたいのは、横ばいなのか、増えているのか、減っているのかということの把握という意味合いなんです。だから、増えているとか、横ばいは、まあ、よしとして、減っているというのは何か原因があるのではないかなと思うんですけど。ここには絶対人数しか書かれてないので、そこがちょっとよく。この前、僕が先に言えばよかったのかもしれないんです、そういう話を。

【事務局】　　極端に減っているところはないと思います。若干減ってきているところがあって、そこはやはり自覚をしていて、対応しなければいけないなと思っているとのことでした。また一方で、今は運営委員が窓口に入るようになっていますが、昔は窓口専従者の方がいました。そういった方々が一定年齢になられておやめになった後、どうやって埋めるのかということがそれなりに大きな課題になりつつあるところが幾つかございます。

それと、すべてではないんですが、わりと大型館、吉祥寺北、中央とかそうなんですが、窓口に人数がたくさんいなければいけないところで運営委員が少なくて、窓口を回すのが結構大変だと、中央などはそういった意見がありました。吉祥寺北は、人数は多くないですが、十分回せているとおっしゃっていました。ただ、市民がボランタリーな活動として運営しているということからすると、人数が少なくて、窓口に何度も入ってくるというのは、それはちょっといかがなのかなという事務局としての思いはございます。

【Ｃ委員】　　全部２月中ですよね、ヒアリング。このヒアリングとは違うかもしれないんですが、この震災を受けて本宿、吉祥寺南町で思わぬ対応を

したということもあったりしたんですが、ヒアリング後に、何かそういったコミセンのあり方についてコミセン自身ですとか、利用者から使い勝手だとか、役割について何か声が寄せられたことというのはあるんでしょうか。

【事務局】　やはりあの震災はすごく大きな事件で、その後、しばらく計画停電などもあり、開館時間を短くしたりいうこともあって、コミセンの方々にとっては、コミセンのありようというものについてきちんと考え直す大きな契機になったのかなと思っています。大変な議論をしていただいた上で１週間閉めましょうとなったコミセンもあったり、コミセンを運営している方々にとってすれば、あの震災自体が大変大きな事件でしたので、あれを見て、私たちも何らかの形で協力をしたい。できることであれば、電気を使わないということだけでも協力をしたいので、建物を閉めたいという方もいらっしゃったり、あるいはこういうときだからこそ、コミセンをあけて、皆さんに来てもらって、地域のつながりをつくってほしいというふうな議論をされているところもあったりしました。研連が臨時の会合を開き、そこの場でどういう対応をしましょうかという議論がされたりしましたので、大きな契機になったと思っています。

ただ、利用者の方からは、震災を踏まえてというのであれば、閉まっていることに対する不満があったり、あるいは開けていることに対して、電気を使っていていいのかという話があったり、震災があって２週間、３週間ぐらいはかなり混乱した経緯はありましたが、今は落ちついています。４月いっぱい夜の開館はしないというところがほとんどでしたが、５月からは２カ所を除いて夜もすべて開館を始めると。かなり節電に配慮して開館をしています。

【委員長】　先ほどのその帰宅困難者を受け入れたというのは、これは市から要請をなさったんですか。

【事務局】　吉祥寺南町コミセンは、市からの要請ではなくて自発的です。井ノ頭通りに面していますので、そこを通って帰られる方が多いだろうということで、前々から何かそんなことがあったら、エイドステーションとしての役割を果たそうというふうに思っていたそうです、自主防災の方々が。それで、電話がかかってきて、やってもいいですかということだったので、いいんですが、泊まれる場所として、吉祥寺の駅の周辺に公会堂をオープンしますから、そちらにご案内をいただいたほうがという話をしました。それから、本町コミセンについては、公会堂があふれてしまって、もうどこにも入れなくなってしまったので、急遽、委員長へ１１時半ぐらいに電話を差し上げて、あけてもらえますかというお願いをして、職員が行ってあけたという経緯です。

【委員長】　　その２カ所ですね。わかりました。

そうすると、これをどういうふうにまとめていくかという話に次、行くんですけど、その前に、一応個々の中身、１６を全部今、通して聞いたので、なかなか細かいところまで読み込むところまでいっていないのですが、お気づきの点がもしあれば、個々の協議会について、確認、質問、その他含めて、どうぞ、何かお尋ねください。

【Ａ委員】　　この住民参加による開かれた運営というもの、とらえ方なんだけど、何かちょっと。全体的な話なんですけど、何か広報紙を出していることがね、何かそれだというような。住民総会なんかもっと重要視するべきじゃないかなと。大体がプラスアルファ、数人しか大体出ないんですよ。私も実は前の委員会の委員をやっているとき出ました、１回。でも、結局は全部でき上がっているんですよ。何も新しい意見が通るような、そういう雰囲気がないんですよね。だから、開かれた住民参加というのはどうも実際がそうはなっていないのではないかなと。だから、広報紙を出しているからそうだって。それだけじゃないんじゃないかな。

【委員長】　　いや、広報紙だけではないですよね。例えば運営委員はだれでもなれるわけだし､利用もだれでもできるわけだし､意見はいろんな形で、住民総会は一つの手段であって、いろんな形で受け入れているわけだから、広報紙だけではない。もう少し広く見てあげなければいけないかなと思うけれども、少なくとも住民総会に関しては、ご指摘のようなことがあって、そもそも住民総会って何なのかということを問い直すような姿勢というのはちょっと見えてない感じはしますね、今回のヒアリングの範囲では。

【事務局】　　それはおっしゃるとおりだと思います。自己点検・評価表のこの運営の参加の中で、「広報紙の発行部数は十分だと思いますか」だとか、「発行回数は十分だと思いますか」という質問がありますので、勢いそこに目がいってしまうのかもしれないんですが、やはり住民総会の参加が少ないということはほとんどのところでおっしゃっていましたし、ただ、その際に住民総会というものがどうあるべきなのかという議論にまではなかなかいっていない。ご案内は差し上げているけれども、参加が少なくて、どうすれば集まる人が増えるんだろうかというところが議論の中心になっているという感じでした。

【委員長】　　前々回の市民委員会、第５期の答申の目玉は開くということでしたが、あんまり意識されてないですかね。

開かれたコミセンづくりということをかなり強調している報告だと、私は見ていたんですけど。だから、先ほどこんなのもあると申し上げたけど、それは制度としてあるわけで、それがほんとうに開かれるということの実質と

結びついているかというと、必ずしもそうなってないところがあって、その食い違いをどう正していくかというあたりが、課題かなとは思います。だから、やっぱりどうして、そうやっていろいろ開かれたコミセンにするための制度はあるのに、周囲の住民から見ると、コミセンというのはどうも入りにくいという雰囲気になっているわけで、それは物理的にも、心理的にも多分入りにくいと感じるところがあるんでしょう。そこをどうしていくかというのがやっぱり大きな課題かなと思います。

ただ、その辺についての自覚というのは、幾つかのところでやっぱり見られますよね。ちょっと今、具体的にどこというのは記憶していませんけれども、最後の西部か…。

【事務局】　ほんとうにいろんな活動されている吉祥寺東も、もっともっと開かれていかなければいけないと思っていますし、どこもそうですね。西部も新しいことを始めて増えてはいるけれども、やはり開かれているという実感をお持ちになるまで至っていないのかなという気がします。

【Ｂ委員】　私も感想というか、さっき一個ずつ聞いておりましたけど、全体に役員がこれをまとめたところが多いですか。全体で話し合って結構深くまで過去５年も含めて協議したというコミセンは、１６のうち幾つぐらいでしたか。

【事務局】　当初お伺いしたときには、最初に吉祥寺南町に行ったんですが、そのことが伝わってなく、もう一回やりますという話になりました。西久保、御殿山コミセンは振り返りをされたとのことでしたが、評価委員会の意図がそのままうまく伝わって振り返りをしていた協議会は３つか、４つぐらいです。それ以外は、その場に集まられた役員５人ぐらいの方、ヒアリングの場でこれをごらんになりながら、どうですかという話をして、その場で振り返りをしました。事務局からの説明が悪かったのかもしれないですけど、少しそのことがうまく伝わり切れていなかったのかなという気はいたします。

【Ｂ委員】　そして、私たち協議会としてやる側にとって、けやきコミセンの例をとると、例えば去年、その前は全員で、運営委員会で一個ずつ何かと言いながら手を挙げて、数というか、こう思う人とか、手を挙げてもらいながら、そういう進め方をしたんですが、意見も聞いたり。その結果、今年は、実を言うと、役員クラスというか、事務局等で１０名、１２名ぐらいで話して出すということになりました。

というのには、この自己点検・評価表をやっていくと、今までのこの問いの中は、とても役員をやってなければはっきり理解できない、意見を言うにもちょっと言えない。そういうことを経験してなければ言えないというものもあるし、役員でない運営委員の人も全員が理解できるかどうかというとこ

ろで、それがごちゃまぜになっている。そうした場合に、とてもちょっとやりづらいという面があったので、今年は役員関係でけやきもまとめてみたというのがあるので、ほかのコミセンではほんとうに役員でない人がわかるのかどうかと、この質問に対して。質問の仕方が役員向けなのか、役員向けじゃないというか、両方もあってもいいですが、そしたら、それを分けて設問をするのか、それによっても違ってくる。全員の意見を聞きたかったら、ほんとうにもっとわかりやすい、役員ではなくても、答えられるような質問にしていくのか。ちょっとその辺があるかなとは思っているんです、現実。

【事務局】　多分あり方懇の数年来の課題だったと思いますが、これについてはやはりわからないというところが幾つもありまして、それが見直しをする契機にもなったんですが、ただ、どの協議会も何とか工夫をしていて、昔は、ただ単純に全員にまいて丸つけてもらって、回収をして平均点をとるみたいな格好になっていたので、全くご存じのない方も、十分によく知っている方も一緒になっていたという経緯がありました。最近は、始める前に代表の方が説明されて、ここはこういうことを聞いていますということをやった上で、あるいは皆さんが集まって議論しながらやっていくという格好で評価をしているところが多いようですから、役員の方だけでチェックをしているところは多分ないだろうと思います。皆さんで議論をするか、あるいは投票という格好になるかもしれませんが、何らかの形で全員が参加をするようにはしているようです。ただ、回収率が低いところもあるようですが。

【Ｂ委員】　もちろん全員に配って丸をしてもらったり、意見というのは書いてもらったものは全員にやっているんですが、それを取りまとめるときに、やはり役員じゃないと、ちょっと取りまとめる場合には非常に難しいというか、そういうものがありまして…。

【事務局】　取りまとめの際には、役員たちで取りまとめをして、若干の役員バイアスみたいなものがあるのか、少し直して書かれるというところもあると伺っていますが、実態に合わせてというところも。

【Ｂ委員】　あと、委員長がおっしゃった、今、開かれたコミセンというか、住民総会にしたり、そういうものもというか、例えば意見を住民の方が言ったときに、よくそれをやはり、もちろんどこもそういう姿勢はあると思うんですけど、それを今年の運営に生かしていこうとか、去年までどうだったかという、けやきも質問がありまして、そういうときにどう答えられるかをいつも思っていたりしますけど、常にその聞く耳というか、それが、その協議会、住民の方が何か言ったものが反映されるのかとか、ちゃんと取り上げられるのかという、その辺もまだちょっとわからないというか、その辺がうまく伝わってないのかなって。

ちょっと一つ反省点と思いますが、住民総会をやりますということはもちろん、例えば市報にも出たり、いろんなところに出て、日付とか、ただやります。こういうことをやりながらやりますとかいうのはありますが、もっと住民総会そのものに、住民の方の意見が取り入れてというか、そういうことが反映するとか、一緒に考えていくということがもっとわからないと、住民総会というのはなかなか増えないのかなとは思っています。その点はまだ、それとももっとそういうところにものすごく工夫をしているところがあれば、逆にお聞きしたいというか、そういう点が。

【委員長】　今、評価をめぐる議論とはちょっと違ってもいけないのだけれども、そもそも住民総会って何なのということ自体が考えなければいけないのかもしれないですね。何で住民総会なんだろうという。ここは結構理念にもかかわる大きな問題かなとちょっと思ったりしますけど。さっきＡ委員、もう決まってしまっていてとおっしゃったけど、やっぱり議論の場になってないわけですよね。

【事務局】　すごく難しいところだと思うんですけど、役所からすると、指定管理をお願いしている団体が１年間の活動報告をして、決算報告をして、そして、新年度の活動計画を出して、予算を出して、それを承認していただくという手続を経ていただくというのはすごく大事なことですから、それをないがしろにしていただきたくないという思いは当然あります。そのことが、一方で、ミニ役所みたいな感じになっていて、市民の方からすると、すごく決まり切ったことをやる場だというふうな思いがあるとすれば、やっぱり行こうという気にはなかなかならないかなという気はしますね。すごくもろ刃のやいばというか、二律背反のようなところがあるんですが。

【Ａ委員】　そういう意味で、基本的にこういう、例えば住民総会とはどのような内容で、どのような位置づけのものが行われるのかとか。要するに、先ほどもどこかでコミセンのことをあまり知らない人とか、それ、ずっと永遠に課題なんだけど、要するに、各協議会で、いわゆる昔風で言うのか、今も言うのか、教宣活動ですね。広報紙に多分それなりのことが書かれたことは過去あると思うんですけど、それはなぜ、例えば住民総会を１年に１回開くのかとかね。なぜそういう一般参加を求めているのか。何かそのやることの意義が何かいま一つ、私だけかもしれません、ちょっと伝わってこないですね、今までのあれをいろいろ見ていても、なぜやるのかという。それは根本にかかわることなんですけどね。だから、そういう教宣活動的なものは比較的、広報はありますよ。広報活動はやっているけど、教宣的なものはあまり見受けられないね。ちょっとそれは気になります。

【事務局】　今年の住民総会で一つ特徴的だったのは、吉祥寺南町ですが、

従来から外環道路に関しては、吉祥寺南町コミュニティ協議会として反対ですと。あるいは慎重な検討が必要ですという決議を上げてきたりして、そういう立場性をある程度明確にしているんですが、今回は、協議会から特段働きかけはしなかったんですが、そこに参加をされた住民の方から、こういう状況だから、外環道路に使うお金があったら、それを被災地の復興に回すべきだろうということで、再度反対する決議を上げましょうという意見が出されて、それが全会一致で採択をされたということもあったりして、そういうふうな場になっているところもあれば、やはりＡ委員もおっしゃっているような、半ば形式的なものになっているところもあって、その住民総会をどういう場として位置づけているのかというのがちょっと明確になり切れていないところもあるかもしれないですね。

【委員長】　こうやって自己評価、あるいは今回行ったヒアリングから問題点が見えてくるのはとてもいいことだと思うんですけど、ほかにいかがでしょう。

【Ａ委員】　あと、コミセンによって、いわゆる窓口対応する人はかなり少ないですね。幾ら小さな館だといっても、ちょっと、一番少ないところで１２名とか、要するに１０名台ですよね。これはすごくそれだけ負荷がかかる。だから、なり手がないという。入ったら、自分もその分、負荷かかりますからね。これはどっちがね、卵が先かどっちか言えないんだけど、何か、これを見ているとかなり無理をしているところが見受けられますね。１０人台はちょっときついんじゃないでしょうか。

【Ｂ委員】　あと、もう一ついいですか。これから話し込んでいくうちに見えてくるかと思うんですけど、全体的な感じで、住民総会もそうかもしれませんけど、何か議論ができるというか、話し合いがほんとうにその協議会はみんなでされているのかというか、議論できる場所になっているかどうかというのが、ものすごくちょっと感じるんです。個人的に幾つかのコミセンの方から、今、現状的にとても運営委員を決めるにしても、何にしても困っている裏にはという言い方はあれなんですけど、例えば昔からの参加者というか、運営委員の方でもいて、やはり古い方という言い方はあれなんですけど、長年やっている方にはとても自信というものもあったり、いい意味ではそういうものもあるんでしょうが、そういう方たちの意見に対して、新しく何か意見を、例えば若い方が参加して言っていた場合に、いや、やはり今までこういうやり方でとてもうまくやってきたんだから､それは問題ないとか。そういうふうに片づけられてしまうと、幾ら意見を言っても、もうそれ以上ならないというか、あきらめて、一、二年ものすごくそういうことに力を入れてきたけれども疲れてしまったという、私のちょっとお知り合いの方のこ

ともあって、疲れないでぜひ頑張ってくださいって言っています。全体でやはりどんな意見も一応はそこで取り入れられて、みんなで、何人かの意見で決まってしまうんじゃなくて、運営委員が例えば２５名なら２５名いれば、みんなの意見でほんとうに最終的には決まっているのかどうか。その辺が民主的に開かれているというか､そこが必要なのかなと思っているんですけど。やっぱり話し合いの場。

【Ｂ委員】　そういうことを思いながら、一つ一つ見ていきたいなと思っているんですけど。

【Ａ委員】　個人的に言うとね、私たち、団塊の世代ですよね。私たちがこういう地域活動にほんとうの意味でね、町内会とか、自治会とか、コミュニティ協議会もそうだけど、ほんとうの意味で開かれてなかったら入りませんね、正直なところ。とてもじゃないけど、気持ち的に入りたいのはね、そういうみんながフリーで議論ができるような雰囲気を持ってないと、やっぱり入れないでしょうね。

【Ｂ委員】　意見が言えるというのは、おもしろさというか、自分もここの協議会に入って一員となってやっているんだという気持ち、その辺が出ないと運営委員というのは増えないと思うんです。入って自分が役立つとか、何か一緒にやっているんだという意識が持てない限りは、なかなか入っていきたい気持ちにはなれない。入ってももう決まっているとか、もうこういうことは決まり切っているとか、あまりそういうものがあると、常に１年ごとに協議会というのは新しくというか、年度でそれこそ住民総会をもって変わっていくんですから、そのときはチャンスというか、もちろんそういうときにほんとうは住民の方からいろんなご意見があって、こんなことも住民は望んでいますなんてことを言った上でなっていくのが一番いいと思いますが。

もう運営委員の一人も住民の一人ですから、私なんかちょっとそれもあるなというか、やっぱり私たちも住民の一人としてそこに参加しているんですから、それも一人、だけど、みんなが意見を言える。そういうところはちょっと見ながら、ほかのというか、いろんな協議会がどういう工夫をしているのかとか、その辺はあるかなと思っています。

【Ｃ委員】　同じ住民だと古い人のほうが力があるというか、新しい住人というのはそれだけでもう入りづらいところがあるのかなと思います。逆に、境南コミセンの運営のあり方というのがほかとちょっと違っているということで、そういうあて職的なところからいろんな集まりがあれば、それは自分がその代表ということで、発言もしやすいのかなということは思います。何で、ちょっと私も歴史を知らないんで、境南だけがこういうあり方になっているというのはちょっとおもしろいなと思うんですが。

【Ｂ委員】　そういう意味では、よさもありますよね。偏らないというか、それは特徴であって、そういう入り方もあるかなとは思います。
【Ｃ委員】　あるんだろうなだよね。これがすべていいのかなというと、そうでもないんでしょうけれども、平均的にいろんな意見が出やすい形なのかなとは思います。
【Ａ委員】　何か前にも、前期のコミュニティ委員会では、それがあまりいいあれはなかった、意見として。要するに、そういうコミュニティ参加というね、そういうどこかの代表をしているから、それに参加するというスタンスだと、ほんとうの意味の。でも、これ、ちょっと違うなと思って、先ほどの報告。確かに今、おっしゃる、そういう面もありますね、確かに。
【委員長】　その議論するということと絡めて言えば、境南は、そういう地区割的なやり方で協力員を出すというやり方をとっていたので、それに対する批判はいろいろあったわけですよ。やっぱり自主三原則の中に個人を単位とする自主参加というふうにうたわれているのにおかしいではないかとあちこちから言われて、議論を始めたわけですよね、ここでいいのかどうかということを。それで、一長一短あるということになり、でも、やっぱり自由に参加したい人もいるだろうから、自由枠というのを新設して、それは、どうぞ皆さん、手を挙げて入ってくださいという混合方式に最近したんですよね。多分そこまでいくのに３年ぐらい、何か委員会をつくって、そこで議論をして、３年ぐらいかかっているんじゃないかと思いますけど。だから、そういう外からの批判というのを真摯に受けとめ、議論をし、変えるところ、変えないところいろいろ出てくるという、そういう議論ができるというのが、Ｂ委員がおっしゃったように、重要なことなんでしょうね。それで、そういう議論ができるから、おっしゃったように多分楽しいんですよ、それが。その場合いろいろ嫌な思いもするかもしれないけど。その議論の中から何か新しいものが出てくるんじゃないですかね、いろいろやりとりをしている中で。それをだれか偉い人がいて、トップが言うことだけをやっていたら、そこからあまり新しいものは生まれてこないですよね。みんながフラットな立場で言いたいことを言い合う中から新しいものが生まれてくる。そのダイナミズムみたいなものが、こういう地域で活動していくことのおもしろさの一つだと思うんだけど。そういうおもしろさを皆さん味わっているんでしょうかという、Ｂ委員が言いたかったことはそういうことなんだと思うんですよね。
【Ａ委員】　素朴な疑問ですが、私は、どこかさっきのところで、前のほうにあったんだけど、どこだっけな。やっぱり基本的には楽しくないとだめですよね。それが基本なんだけど、ほんとうに楽しくやれているところばかりでしょうかというのが何となく気になるんですよね。

【委員長】　そこはしばしば誤解されてしまって、楽しくやるというのは、何かおもしろおかしくできればいい。かたいタイトルの講演会よりは、何かお祭りみたいなほうがいいとかね。何かそういうふうにちょっと誤解されているところもあるかもしれないですよね。そういう人と人との関係のダイナミズムみたいなものを楽しんでほしいと思うんだけど、それがコミュニティというものだと思うんだけど。

【Ａ委員】　やりがいとか、生きがいとかという、そういうものにつながっているかどうかでしょうね。自己実現とまではちょっと言うのはあれかもしれないけど、少なくともやりがいとか、生きがいというレベルはやっぱり感じられるようなことは、この活動では必要じゃないかなと思いますよ。

【Ｂ委員】　そうですね。決まった、例えばイベントとか、何かがあって、ただ、それをこなしているだけではおもしろ…。まあ、それでもやりがいはあるかもしれませんが。

【Ａ委員】　それもある意味でね、もちろん楽しく生きがいを持つためには義務も必要だし、それは抑えるところは抑えるんだけど、そればっかりではね。それが今までのあれだと、大体かなりそういうものが、言っちゃ悪いけど、上のほうから決めたものが下におりてくるような格好が多いんじゃないかと思うんですよ、何か行事をするといったら。もうだれだれさん、あれこれともう決められてね。ほんとうは、自分はこっちをやりたいのに、決まっちゃって、何か。というのも中にはあるんじゃないかな。

【Ｂ委員】　ただ、そういう関係が楽だというふうにとるところも、実際には。

【Ａ委員】　もちろん。だから、何でも物事はいいところと悪いところがあるんであって、それはもう。

【Ｂ委員】　そうなんで。ただ、楽…、まあ、ちょっとわからないですけど、その辺が。

【委員長】　というふうに語り出すといろんなことが出てくるのですけれども。こういう言い方をしては事務局に申しわけないけども、きょう、ちょっとここで事務局の説明を聞くだけではなかなか読み込めないところもあるので、それぞれ、これは持ち帰ってもいいですね。

(3) 評価の作成方法について

【委員長】　持ち帰った上でまた少し熟読していただく中で、いろんなことがまた見えてくるかと思うのですが、とりあえず今回こういうやり方でやってきて、次のステップ、どうするかということが当然課題になるわけです。評価の作成というんですかね。どういうふうにこれを、今までのものを取り

まとめていくかという段階ですが、それについても、一応事務局の案があるということなので、ちょっとその説明を伺いましょうか。

【事務局】　資料４、様式案です。協議会名、総評というコメントがあって、評価の内容ですが、これは前回の委員会で評価項目として挙げて、皆さんにお話いただいた部分です。運営の工夫、適正な運営、施設・設備の管理、その他としています。利用者アンケート、自己点検・評価、ヒアリングという３つの、コミュニティ協議会のそれぞれの活動に対する一定の見方をしています。その中から、ここに掲げている項目について何らかのコメントを書き出すことができるだろうと思っています。それを全部かどうかは別にしても、特徴的な部分を列挙していけば、それぞれの協議会の特徴があり、それに対する評価のようなものができるのかなと思っています。それを書き出した事務局案を作成し、それをたたき台に、委員会としてそれぞれの協議会に対する総評、評価を出していただくという形がわかりやすいのかなと思っています。それぞれの協議会の今までの活動に対する評価をさまざまな形で行っていますが、それを全部抜き書きしていくような格好に、この項目に合うようなものを書いていくと。それを全部見ていただいて、委員会としての総評を出していただくというやり方が一つ方法としてあるのかなと思います。

ただ、今、議論になっています、開かれているというところの評価をどうするのかというのは難しいかなと。開かれているというのが、何をもって開かれているとするのかというところがすごく難しいと思っています。利用者、あるいは住民の方から、コミュニティ協議会に対していろいろとご意見等をいただく場合には、そのことは結構大きな課題だろうと思っています。Ａ委員がおっしゃっている、もう最初から決まっている、その決まり方がおかしいという話など、いろいろあると思うんですが、それをどういうふうに評価するのか、あるいは直ちに評価できないまでも、こういうふうなやり方があるのではということが評価委員会から提示ができるかどうかというのは、かなり大きな部分を占めていると思います。そこまでの準備であれば、事務局でたたき台をつくるのは可能だと思います。

【委員長】　そうすると、こういう今、その様式案にあるような形のものが出てきたとして、それで終わりにするかどうかというあたりが一つありますかね。前の議論はどうなっていましたか。それで終わりでしたか。

【事務局】　この評価ですと、コミセンを利用している人、コミセンの協議会の自分たち、その事務局である私たちのヒアリングというものからでき上がっていますので、この間、議題というか、話題になっていたコミュニティセンターを使っていない人たちの評価はどうなるのかという話になりますが、そこは欠落した部分に多分なると思います。ただし、利用されてない方

というのは、個別のコミュニティ協議会がどうだというふうな意見がなかなか出てくるわけではないでしょうから。武蔵野市のコミュニティ協議会全体、コミセンというものに対する全体としての市民の方、利用されていない方々の暗黙知のようなものが何かあるとすれば、それは、例えば委員会の中でお出しいただくのか、あるいは何らかのそういった意見を抽出するような場を設けるのかということなのかもしれないですけれども、その部分だけは足りてないかもしれないです。

【委員長】　そうですね。そういう問題が一つありますよね。いや、私がふと思ったのは、これをもう一遍フィードバックすることはしないかということです。ぽんとこれを出されて、さて、協議会はどう見るだろうかという。それは下手にフィードバックをしないで、これまでのデータでぽんと出されたことのほうがいいという面もありますよね。で、それはもう評価は評価として出しちゃって、それから先の議論は別途やっていただくという、そのほうがいいんですかね。

【事務局】　私どものヒアリングの充実度がどのぐらいかというところは置いておくとしても、基本的に協議会の皆さんはもう既にご存じの中身、自己点検したもの、それから、利用者アンケートについても、自分たちでもそれは見ていますので、どういうふうに見られているのかということはある程度わかっています。ですから、そこの部分まではおわかりだろうと思います。それを踏まえて評価委員会としてどういう評価をするんだという部分については、初めてのことになりますが、あえてお返ししなくてもいいのかなという気はしていますが。

【委員長】　評価委員会という外部、それは実際には事務局がヒアリングをしているというのはあるけれども、評価委員会という、協議会の外部からこう見えましたよということが伝わればいいんですよね。この様式案に大項目３つプラスその他と、それぞれの項目の中に幾つかの評価の観点が書いてありますが、この辺に関してはどうでしょう。これで必要かつ十分か。

【Ａ委員】　一応これ、前回の１月６日もこの議事の中の最後に、この評価の視点、判断基準というのは同じ内容で出ているんですよね。特にそれは変わっていないんだね。

【委員長】　この最後、３番はまあまあ書きやすいというか。管理者としてちゃんとやっているかという、わりと機械的に書けるところですよね。だから、実質的なのは１と２かなと思いますけども。

【Ｃ委員】　ただ、何か自己評価の中で自問自答されているというか、課題認識がすごくいっぱい出てきているんですが、それを何かこの委員会としてどういうふうに答えで返していくのかという、それはそれとして置いとい

たままで評価をするのでしょうか。例えば、ご自分たちの中でも、果たしてこれが開かれていると言えるんであろうかだとか、若い世代が入ってこないのは苦慮しているとか、現状とのギャップに悩んでいるとかって、そういう何か自問自答、課題認識みたいなのは結構見え隠れするんですけれども。

【Ａ委員】　結局そこから一歩踏み出してないんだよね、今まで５年間。みんな課題は大体今までもずうっと。だけど、じゃあどうするんだという。それはあまり深く多分今まで開かれた議論をされていないんではなかろうかという。全部じゃないかもしれませんよ。やっているところももちろんあるかもしれない。

【事務局】　今、Ｃ委員のお話で、多分このヒアリングをしたことによって出てきたことなのかもしれないんですが、例えば吉祥寺東では、何か難しいことばっかりやっていて、なかなか近寄りがたいと思われているのではないかなと思っていますというふうなことですとか、あるいはけやきだと、何か内輪で仲が良すぎてちょっと近寄りにくいというか、あの仲間に入りにくいみたいな話があったりとかいうのは、やはりこういう見直しをして、振り返りをした中から出てきているんだろうと思います。それは、ひょっとしたら、評価委員会として、外部からも何らかのサジェスチョンのようなものを、あるいはその議論を深めていただくことしかないのかもしれないですが、課題としては認識されているので、その課題をやっぱり深めた議論をフラット、フリーにしていただくしかないのかなという気もします。これ、こうしなさいというものはなかなかないでしょうから。

【委員長】　そう。それはできないし、してもいけないんだろうと思うんですよ。それはちょっと役割を逸脱してしまうので。ただ、これはあくまでヒアリングだから、そのとき言ったかもしれないけど、それが協議会の課題、総意でもかもしれないし、それから、課題として必ずしも持続的に意識されていかないかもしれないですよね、そのときしゃべったけど。だから、それを書いておいてあげるというぐらいはできるかもしれませんよね。

【Ｂ委員】　そういうものに対して、今言ったように、こうしなさいとかじゃなくて、こういう方法もあるとか、ちょっと方向性が幾つか挙げられれば参考になるという。絶対何かそういうものを見れば、ああ、そういうやり方というか、そういう見方もあるんだなということがわかるというか、意識。

【事務局】　委員長がおっしゃったのは、たまたまそのとき出てきたかもしれないので、明記しておくことによって、いつも振り返りができるように、こういった意見も出されたとしておくということですよね。

【委員長】　課題としてこういうことがあるというふうに、あなた方挙げたでしょというのを。それを書いといてあげるといいですよね。

【Ｂ委員】　　何か皆さん、コミセンで望まれているというか、評価の、今回も評価委員がなぜ回らないのって、私も言われましたが、ちゃんと経緯を話して、そういうことを話しましたけど、評価委員しか、もし何か今、言ったように、言えるのは、こうしなさいじゃないけど、ほんとうにいろんなふうに見えるということが言えるのは、評価委員の人しか言えないんじゃないの。だれも言えないというのがお互いにあるので、評価委員が言うしかないというか、何かを打ち出しておけるのは評価委員会なのかなとは思っていますけど。まあ、いろんな見方ですね。

【Ｃ委員】　　あるいはこういう報告書ということでいろんな事例を挙げることで､自分みずからの気づきのものを提供するぐらいのことでしょうかね。

【委員長】　　それは、あんまり効果がないですよ。やっぱり個別に、おたくはこうでしょって言ってあげないと、なかなか伝わらないんじゃないかなって。つまり、これはもう経験的に言っているんだけど、やっぱりコミュニティ市民委員会の答申ですら、一般的に書いてあるとなかなかそれは個々の協議会には通じない。これはやっぱりうちの課題だよねというふうには思ってもらえないみたいなところがあるので、おたくはこうですよって。

【事務局】　　確かに本宿コミュニティ協議会は、前回子どもの参加が少ないって書かれたので、それを一生懸命やりましたというふうなヒアリング回答でしたから、それはすごく大きなことなんでしょうね。

【委員長】　　それから、そうじゃなくて、一般的に指摘されたことを自分のところに翻訳して理解するということも是非してほしいとは思うけれども、なかなかそうならないところがあるので、評価委員会はこうやって個々の協議会について見てきているわけだから、何か個々の協議会に指摘しておくほうがいいかなと思います。Ｂ委員がおっしゃるように、こんなふうにというような、何かヒントみたいな部分まで書き込めるかどうかですね。例えば運営委員のなり手がいなくて困っていますというのは幾つかあるわけです。そこに我々としても、評価委員会としては、こんな手だてで考えてみたらどうですかという提案ができるかな。

【Ｂ委員】　　どこまで提案できるかなんですけども。

【委員長】　　それはまたちょっと別のところで考えたほうがいいんじゃないかな。これは一応評価として出せば、それはもう独立したものとして我々から離れていくわけですから、だれが見たっていいわけですよね。例えば、研連がコミセン全体の課題として受けとめて、いろいろ指摘されていることを順繰りに考えていきましょうということにもなるかもしれないですね。ここで評価委員会が突っ込んで何か示唆を与えるよりも、指摘だけにとどめておいて、その指摘されたことをどう受けとめるか、さっきもお話ししたよう

に、個々のコミセンが受けとめるということもあるでしょう。それから、全体を見わたして、何か研連が受けとめるということもあるかもしれない。その辺、報告書の最後のほうにでも、ぜひ研連でやってほしいとか、何か書くことはできるかもしれないけど、何かその辺でとめておいたほうが、指摘まででとめておいたほうがいいんじゃないかなとちょっと思うんですよね。

【Ａ委員】　この様式案ですけど、事務局のほうのあれで、この評価の内容というのはね、厳密に言うと自己評価の内容、どっち。これは何の評価…。

【事務局】　自己評価の内容、ヒアリングをした内容、利用者アンケートの結果、それぞれを、どれか、何かしらここに書き込むことが可能かなと思っています。できない部分もあるかもしれないんですが、それを記入して、この部分についてはこういったことがあるという事実を書き込んでいくということは可能ではないかなと思っています。

【Ａ委員】　でも、いずれにせよ、要するに、コミュニティ協議会側から出た事実関係みたいなものを書くわけですね。

【委員長】　あくまでもデータは今、おっしゃった３つのものなんですね。だから、ある意味、評価委員会の役割は、３つを整理して提示するという、こういう形に整理して提示することだと思います。だから、我々が個々の協議会について何を思っているかということはあまり入ってこない。そこまではやり切れないので、今回、今やってきたようなやり方でやろうというのが今回のやり方ということで合意しているんだと思います。

【事務局】　思惑もございまして、ある程度こういうふうに定型化ができていれば、次の指定管理の指定管理替えの前の年にそういったことができるかなという、ある程度の形式をつくっていきたいという思いはあります。

(4) スケジュールの確認

【委員長】　そうしますと、きょう決めておくことは、この様式案に従って、まずは３種類のデータを総合して埋めていっていただくと、項目を。それでおしまいではなく、それをまた次回見て、それでよいのかどうかということを検討する。あるいは私たちもヒアリングの結果、もう一遍よく読んで、このコミセンについてはこんなことも書き込めるのではないかというようなことを少し点検していくという、そういう段取りになりますかね。

そうすると、私どもとしては、ヒアリングの結果、それから２１年度までの５年分のこれと去年版の２２年度、利用者アンケートの３つのデータを全部もう持っています。委員の皆さんにお願いは、ヒアリングの結果を見つつ、５年間プラス１年で６年分の自己点検・評価表と見比べつつ、個々のコミセンについて、この様式に挙がっている各項目のどんなことが指摘できるのか

ということを、細かくなくてもいいですけれども、あらまし見ておく。次回に事務局がまとめたものが出てきますので、それについてご意見をいただく。日程調整はこれからになりますけれども、できれば事前に…。量が多いので、１６掛けるこれだけの項目を見なきゃいけないから。

【事務局】　これが１６枚あって、それを事前にメールでお送りをして、ごらんいただくことができるようにしたいと思っています。できたら、１週間ぐらい前にお送りできるといいかなとは思っています。

そこまでできれば、次回はその中身をたたいて、皆さんからいただいたご意見を付加していくということができると思います。報告書として市長に提出するわけですが、その形がある程度こちらからも、まえがきがあって、これがあって、あとがきがあって、資料があるというふうな形になるんだろうと思います。その辺のお話をして、そこまでできれば、もう一回ぐらいで何とかなるのかと。あと２回ぐらい委員会を開ければ何とかできるかなと思っておりまして…。

途中このヒアリングがあったり、震災があったりして、三、四カ月の遅れですが、夏頃には取りまとめができればいいかなという段取りで考えています。

【委員長】　課題というのをつけておいてくださいね、自分たちが認識をしている課題という項目を。

そうしましたらば、一応ここまでで、きょうここでお話し合いすること、決めておくことは終わったかなと思うのですが、委員の皆さんから何かありましたらば。

(5) 意見交換

３　その他

【Ａ委員】　ちょっと確認なんですけど、この自己点検はあり方懇で見直したんでしたよね、去年。この１年間で開かれた運営というのがここに出てきている。これは何か、コミ研連とか、あり方懇でのあれだったんですか、共通したテーマだったんですか。今ごろ聞くのはおかしいんだけど。この開かれた運営というのは。

【事務局】　これはもともとこのテーマなんです。この大きな項目が住民参加による開かれた運営になっていますかとなっていて、この前からの自己点検・評価表もこういうふうになっていました。

【Ａ委員】　ああ、この開かれた…、じゃあ、特別この１年間こういうテーマを取り立ててやったわけじゃなくて、もともとそうなんですか、わかりました。

【事務局】　　というわけではないんですね。前から同じような問いかけがあったんですが、それで、なおかつこの開かれた運営という部分を総合的に評価するに当たって、特にこの１年間どうでしたかということを聞く予定だということです。
【委員長】　　大項目自体の入れかえはありませんよね。
【事務局】　　ありません。追加がありますけれども。
【Ａ委員】　　ああ、そうか。前ずうっと、これがずっとテーマになっているんだ。はい、わかりました。
【Ｃ委員】　　この５年間の推移に２２年をプラスするというのは結構大変な作業なんですか。
【事務局】　　はい。大変な作業になります。
【Ｃ委員】　　自分で見てみていいですか。
【事務局】　　はい、お願いします。

４　閉会
【委員長】　　では、特にご発言なければ、本日の委員会はこの辺で閉じたいと思います。どうもありがとうございました。

――　了　――